

## 令和3年度第2回かわさきパラムーブメント推進フォーラム

- 1 日 時 令和4年3月23日（木）10時00分～11時30分
- 2 会 場 川崎市役所 第3庁舎18階 大会議室
- 3 出席者
- 【委員長】 福田市長、成田共同委員長
- 【顧問】 中森顧問、  
(オンライン参加)  
伊藤顧問
- 【委員】 小倉委員、菊地委員、草壁委員、瀬戸山委員、多田委員、丹野委員、  
土岐委員、中澤委員、山崎委員、湯浅委員、渡部委員  
(オンライン参加)  
遠藤委員、大塚委員、杉山委員、須藤委員
- 【事務局】 加藤副市長、中村市民文化局長  
(市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室)  
原室長、成沢担当課長、井上担当課長、  
太田課長補佐、田中担当係長、永田担当係長、  
奥貫職員、古谷職員、柴田職員  
市民文化局コミュニティ推進部 阿部部長  
市民文化局市民スポーツ室 片倉担当課長  
市民文化局市民文化振興室 山崎室長  
教育委員会学校教育部 星野担当部長  
健康福祉局障害保健福祉部 西川部長
- 4 議 題
- (1) かわさきパラムーブメント及び英国ホストタウンにおける今年度の主な取組
- (2) かわさきパラムーブメントにおける来年度の主な取組
- (3) その他
- 5 傍聴者 0名

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】 おはようございます。定刻になりましたので、遠藤委員と栗山委員がまだ見えていませんが、開催させていただきたいと思えます。今、市長から発言がありましたように、節電モードの照明でございますので御理解いただければと思えます。

ただいまから、令和3年度第2回かわさきパラムーブメント推進フォーラムを開催します。

議事に入るまでの間、進行はオリ・パラ室長の私が担当させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

まず、何点か事務連絡をお伝えさせていただきますが、初めに、本日のフォーラムでございますが、公開となっておりますので傍聴を許可しておりますので、あらかじめ御了承いただきたいと存じます。また、会議につきましては、発言の内容を記録し、発言者の氏名も含めて、後日、市のホームページで公開させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

次に、本日の会議でございますが、庁内ではペーパーレス化の取組を推進しておりますので、その一環として、本日もペーパーレス会議システムを導入しており、フォーラムの各委員の皆様にもタブレット端末を配付させていただいて、それにより会議を進めてまいりたいと思えます。

なお、タブレットの操作は各委員御自身でお願いをいたしますが、画面をタッチした状態で右から左に指を動かしていただくと次ページに進みます。逆に、前ページに戻る場合には逆に動かしていただければと思えます。なお、画面右下の発言者ボタンはクリックしないようにお願ひしたいと思えます。

また、画面に不具合が生じている場合や紙資料を御希望される方は、市の職員にお声がけいただけますようお願ひいたします。

なお、本日は伊藤顧問、大塚委員、須藤委員、杉山委員がリモートで御出席をしておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務連絡は以上でございます。

それでは、初めに福田市長から皆様に御挨拶を申し上げますので、福田市長、よろしくお願ひいたします。

【福田市長】 皆さん、改めましておはようございます。大変お忙しい中、お集まりを

いただきまして、誠にありがとうございます。リモートの参加も含めて、今日は全員御出席ということで、御協力に感謝申し上げたいと思います。

まず冒頭、今年の東京大会で、50メートル背泳ぎ6位入賞という快挙をまた打ち立てられた共同委員長の成田真由美さん、本当におめでとうございます。

【成田共同委員長】 ありがとうございます。(拍手)

【福田市長】 このフォーラムとしても大変誇らしく、ありがたく思っています。

実はこのフォーラムを始めてもう6年半たちまして、この間に皆様から様々な御提言をいただいて、いろんな挑戦をしてきてということでもありますけれども、一旦今回の会議で終了ということになりますけれども、このパラムーブメントそのものが終わったわけではなく、まだ緒に就いたばかりという感じもございます。これから新しい、今日その課題にもなりますけれども、どういうふうにこれからまたパラムーブメントを進めていくのかという、そういう認識に立ってこれからやっていかなくちやいけないなと思っています。

今日は、今年度の取組の報告と、それから昨年、ほとんどエンゲージメントができなかったんですけれども、英国の選手たちをお迎えして、その報告もさせていただきたいと思っています。多くのボランティアの皆さんが制限のある中で大活躍していただいて、その報告ができるのを楽しみにしていますし、また、今申し上げたように、来年度、今後どうやっていくのかということもお話しできればと思っています。また今日も忌憚のない御意見をいただけますように、よろしく願いいたします。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】 ありがとうございます。

続きまして、共同委員長でございます成田様から皆様に御挨拶を申し上げますので、成田様、よろしく願いいたします。

【成田共同委員長】 皆さん、おはようございます。今、福田市長のほうからお話ししてくださった、私にとって6回目のパラリンピック、最後の最後で決勝戦に残ることができて、本当に安堵したところでもありました。

今回、東京大会ということで、時差もなく、飛行機に乗っていくわけでもなく、おいしい御飯に囲まれて、すごく充実した選手村での生活を送ることができました。今回の東京大会が終わりではなくて、2024年のパリ大会にどうつなげていくか。今回、本当にたくさんの方からリアルタイムでLINEとかで連絡をもらって、こうやってマスコミに取り上げてもらっているんだな、私たちのパラリンピックを番組として、ニュースとして取り上げてもらったことをとてもうれしく思っています。もうすぐパリ大会はやってくる

と思うんですけども、この川崎も含めてもっともっと障害を持つ人たちが生活しやすいようにしていくために、私ももっと動いていかななくてはいけないなと思っているところで

す。  
そして、手元に補助犬の資料を置かせていただきました。これは日曜日に衆議院議員の阿部知子先生とお会いすることがあって、補助犬についてもっと多くの人たちに理解してもらいたいという伝言を預かってきました。補助犬を使っている方が救急車を呼んだときに、補助犬は救急車に入れてもらえなかったそうなんです。そういう事実が、まだまだそういうレベルなのかなと思うと、補助犬の存在も多くの方に知っていただきたいと思って今日資料を置かせていただきましたので、時間があるときに目を通していただければと思います。またこれからもどうぞよろしくをお願いします。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】 成田様、ありがとうございました。

それでは、本会議の進行につきましては、委員長であります福田市長が務めますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、福田市長、よろしくお願ひいたします。

【福田市長】 それでは、次第の2について事務局から説明をお願ひいたします。

【成沢オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】 それでは、私、オリンピック・パラリンピック推進室担当課長の成沢と申します。どうぞよろしくお願ひします。

では、資料1のかわさきパラムーブメントにおける今年度の主な取組について御説明いたします。改めて資料1の1ページを御覧いただければと思ひます。

初めに、かわさきパラムーブメントフォーラムについてでございます。こちらは、英国のホストタウンとして、英国選手団の受入れの実績や知見をかわさきパラムーブメントのさらなる展開にどのようにつなげていくかを考え、共通認識を醸成する場とするために開催したものでございまして、「東京大会を終えて 共生社会へ向けた新たな幕開け」というタイトルで先月20日に開催いたしました。

内容としましては、英国代表チーム事前キャンプ活動報告やブリティッシュ・スクール・イン東京によるオリ・パラプログラムの取組についての発表、東柿生小学校によるパラムーブメントに関する取組発表などございました。

次に2、商店舗等におけるかわさきパラムーブメント実践事業でございます。こちらは、成田共同委員長からの御提案に基づき、障害者、外国人、高齢者をはじめとした店舗利用者に対し、ソフト面及びハード面のバリアフリーに対応している店舗を発信し、誰もが店

舗を利用しやすいまちを目指し、取り組んできた事業でございます。

かわさきパラムーブメント実践店は、市内店舗がソフト面、またはハード面のバリアフリーに対応していることを、ステッカーの掲出、本市ホームページでの掲載等を通じて発信するものでございまして、現在、コンビニエンスストア、郵便局、金融機関など、市内818店舗が登録済みとなっております。

バリアフリー情報発信につきましては、店舗が自らバリアフリー状況調査を簡便に実施できる「バリアフリー状況確認キット」を本市が作成いたしまして、各店舗が入力シートに数値等を入力するだけで簡単に作成される「インフォシート」を通じ、自身の店舗のバリアフリー情報の発信が可能となっております。なお、申請や登録は不要で、市ホームページからダウンロードし、自由に利用することができるようになっております。

次のページに参りまして、3、庁内職員を対象とした心のバリアフリーに関する研修でございます。こちらは、職員一人一人が心のバリアフリーについて考え、自分ごととすることで、庁内におけるかわさきパラムーブメントの理念を浸透させるために実施したものでございまして、局長級職員を主な対象として「心のバリアフリー」をテーマに、講義及びグループワークから成る研修を実施し、27名が受講しました。

また、職員が合理的配慮の提供ができるよう、ユニバーサルマナー研修を実施し、今年度は87名が受講しました。なお、研修を開始した平成29年度からこれまでの総受講者数は439名となっております。

次に4、心のバリアフリーに係るエピソード発信事業でございます。こちらは、市民が自ら実践、体験、発見した「心のバリアフリー」に該当する行動等のエピソードの発信を通じて、発信者及び受信者の「心のバリアフリー」に対する理解の深化と実践などへの行動変容につなげていくことを目的に実施したものでございます。

市民が実践したり、受けたり、あるいは発見したりした「心のバリアフリー」に該当するようなエピソードを募集し、市ホームページで「心のバリアフリーエピソード集」として毎月発信するとともに、四半期ごとに、投稿エピソードの中から「みんなに実践してほしいエピソード」を選定し、市ホームページ上で公表しました。令和2年11月から本年3月までの実施期間で、累計応募件数は111件となっておりまして、これまでの「みんなに実践してほしいエピソード」としては、視覚障害者に駅で乗車する電車をサポートした事例や、手話を教えた相手がバイト先で実際に手話を使用した事例などが選定されております。

次に5、感覚過敏の方を対象としたバリアフリー化事業でございます。発達障害の方に多く見られる感覚過敏のある方が安心して買物などに行ける環境を整備することや、社会における発達障害や感覚過敏の認知度を高めるために実施したものでございます。これまで、令和元年7月にイオンスタイル新百合ヶ丘におきまして、1日限定で試行実施していただき、その後、私どもで他の商業施設にも実施を働きかけてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症への対応などにより実施には至っておりません。そのため今後、商業施設などが主体的にクワイエットアワーを実施できるよう、障害当事者や市内店舗へのヒアリング結果や専門家の意見等を取り入れたクワイエットアワー実施のためのサポートブックやポスターを作成いたしまして、現在、誰でもダウンロードして使用できる形で市ホームページで公開しております。

次に6、バリアフルレストラン in 川崎アゼリアでございます。こちらは、障害の社会モデルの考え方を体感して学んでもらうことを目的に、車椅子使用者が多数派、二足歩行者が少数派である社会を体験できる場を一昨日に川崎アゼリアサンライト広場で実施いたしまして、約450名（うち体験プログラムに参加した35組）の方に御参加いただきまして、例えば障害のある方に「すごいですね」という声かけが、実は当事者には嫌な思いをさせていたかもしれないといったような感想をいただいております。こちらは、本市において来年度から本格的に展開していく予定となっております。

次に7、次のページに参りまして、eスポーツを活用した体験イベント（障害者のためのチャレンジ！eスポーツ）でございます。こちらは障害のあるなしにかかわらず、誰もが一緒にスポーツを「する」「見る」ことができるインクルーシブな社会を目指し、健常者と障害者が垣根なく一緒にスポーツを楽しめるツールであるeスポーツを活用した体験イベントを本年度3回開催いたしました。

特に一昨日には、川崎ルフロン1階イベントスペースにおいて、フレックスコントローラーを使用したeスポーツ体験や、障害のある方がeスポーツを楽しむための個別相談、全国各地の障害のある方のeスポーツプレーヤーとオンラインで対戦するエキシビジョンマッチとトークセッションを開始し、344名（うちオンライン視聴者143名）の方に御参加いただきました。

次に8、パラスポーツやってみるキャラバンでございます。こちらは、複数のフォーラム委員から御提案を受けて実施してきたものでございまして、パラスポーツや障害への理解促進を目指し、パラスポーツの魅力を子供たちに体験してもらう参加型の体験講座を公

立小学校及び公立中学校、私立小、特別支援学校、寺子屋で実施してまいりました。当初は、令和2年度中に公立小学校全校での実施を目指しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため持ち越しとなり、今年度中に達成することができました。このプロジェクトは、当初の見込みどおり全小学校で実施を達成いたしました。これで終わることなく、今後も引き続き実施してまいります。

次に9、親子サッカー教室&パブリックビューイングでございます。こちらは、見た目でも分かりにくいことなどから周囲から誤解を受けやすいと言われている発達障害に対する理解の促進や、誰もがスポーツや旅行を楽しめる社会の実現を目指して、川崎フロンターレが主体となって実施しているものでございまして、これに対し、JTB、ANA、富士通と本市が連携し、運営スタッフが発達障害に関する研修を事前に受講することや、参加者が静かに落ち着くことのできる「スヌーズレン」を設置することで、安心して参加できる環境を整え、実施いたしました。

次のページに参りまして、10、個人型トップアスリート助成制度でございます。こちらは、中森顧問の御提案を踏まえて事業化したものでございまして、本市にゆかりのある選手が、神奈川県や競技団体などの支援や強化指定を経て、将来的に各種世界大会等で活躍することで、それを見た市民に感動と喜び、夢を与え、シビックプライドを醸成するとともに、スポーツへの関心を高めることを目的として、選手個人に対して対象の経費の一部を助成するもので、今年度は6競技10名の方が助成を受けられております。

次に11、障害者音楽フェスティバル（かわさきパラコンサート2021）でございます。こちらは、障害のあるなしにかかわらず、誰もが音楽等を楽しむ機会を通じて、お互いを理解・尊重し、多様性を受け入れる社会を目指すことを目的として昨年5月に開催したものでございまして、約800名の方に御参加いただきました。

次に12、Color'sかわさき展でございます。こちらは、社会的包摂の実現に向け、アートを通じて、作者の障害のあるなしにかかわらず、ありのままの作品の魅力を感じてもらうことを目指して実施したものでございます。詳細につきましては、後ほど多田委員から御説明いただければと存じます。

次のページに参りまして、13、ブリティッシュ・カウンシルとの連携事業でございます。こちらは、英国の公的な国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルと連携し、あらゆる人が音楽に親しみ、創造性を発揮できる社会の実現を目的に実施したものでございまして、詳細につきましては、後ほど湯浅委員から御説明いただければと存じます。

次に14、かわパラ2022パラパークでございます。こちらは、パラスポーツや障害への理解促進、かわさきパラムーブメントの理念浸透等を目的として、一昨日にラゾーナ川崎ルーファ広場で、パラスポーツ体験やパラリンピアントークや音楽ライブ、英国発祥のクリケットの体験などが楽しめるイベントを実施いたしまして、約2,350名の方に御参加いただきました。

次のページに参りまして、15、かわさきパラムーブメントに係る意識調査でございます。こちらは、かわさきパラムーブメントに対する市民の意識を多面的に調査することにより、市民のかわさきパラムーブメントに対する認知度やレガシーの達成度等を明らかにし、今後の方針や施策の企画立案の参考とすることを目的として市民向けインターネットモニター調査、障害当事者向けアンケート調査、中学校向けアンケート調査の3つのアンケート調査を実施いたしました。結果等につきましては、資料で御確認いただければと存じます。

次に16、合理的配慮の提供等に関する基本方針の策定でございます。こちらは障害者差別解消法に基づき、行政機関に義務づけられている合理的配慮の提供における本市の基本的な考え方やあるべき姿等を全ての職員が理解し、個々の考え方にとらつきがないよう、合理的配慮の提供を行うために策定したものでございまして、合理的配慮の提供に向けた基本的な考え方、職員のあるべき姿、進行管理、本市の管理体制について定めたものでございます。今後、本市職員は、この方針に基づき、合理的配慮を必ずしなければならない決まりごととして行政サービスの提供を行ってまいります。

次に17、かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョンの見直しでございます。こちらは、現在のパラムーブメントの取組の根拠となっております第2期推進ビジョンの取組期間が今年度で終了するため、次年度以降の方向性を示したビジョンを策定するために見直しを行うものでございます。第2期推進ビジョンの目指すものの理念は、共生社会を実現させるための目的や基本的な考え方を示したものでございますことから、次の推進ビジョンでも踏襲し、レガシーや取組期間について見直しを行うことで、共生社会の実現に向けたビジョンとして特化させてまいりたいと考えております。

資料1の説明は以上でございます。

**【福田市長】** ありがとうございます。

**【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】** それでは、引き続きまして、資料の2、英国ホストタウンにおける今年度の主な取組について御説明をさせていただきます。

たいと思います。オリンピック・パラリンピック推進室担当課長の井上です。よろしくお願ひいたします。

資料2ということで、右下に7ページと振ってあるところを御覧いただきたいと思います。1年遅れで開催されました大会ということになりましたけれども、まず左側、英国事前キャンプ受入れの概要ということで、御案内のとおり、川崎、横浜、慶應、この3者で受入れを行ったわけですが、まず1番の全体の規模といたしましては、オリンピック代表チーム、選手スタッフ等約630名、そしてパラリンピック代表チームが約190名ということになります。

2番の川崎市における事前キャンプ受入れ結果でございますけれども、等々力陸上競技場のほうで事前キャンプが行われまして、まず、オリンピック代表チームにつきましては、女子サッカー、ラグビーと陸上競技ということで、7月9日から8月1日までで計200名の選手の受入れを行いました。英国全体の総メダル獲得数につきましては64個ということで、国別で言いますと、アメリカ、中国、日本に続いての第4位ということになります。

次に、パラリンピック代表チームにつきましては、陸上競技の受入れを行いまして、8月14日から8月30日で約90名。英国の総メダル獲得数につきましては、124個ということで、中国に次いで第2位ということになっております。

右側に移りまして、3番、事前キャンプにおける交流事業・おもてなしということでございますが、コロナ禍で直接交流というものは制限されましたけれども、幾つか交流することができたということで、まず1点目が、英国代表チーム公開練習ということで、ラグビーの男子チーム、またオリンピックの陸上、この2回公開練習ができまして、計約500名の市民の方にスタンドから見ていただくことができました。また、市内の小・中・高校生とのビデオ交流を行いまして、3点目は市立田島支援学校と連携した移送用バスの提供ということで、パラリンピックの選手・スタッフの移送用にスクールバス(福祉バス)を活用いたしまして、パラ陸上選手からはお礼のメッセージ動画ですとか、サイン入りのシャツなどを頂きまして、コロナ禍で間接的な交流を実現することができました。

次に4点目でございますが、市内企業に御参加いただきました英国代表チーム川崎キャンプ推進協議会によるおもてなしということで、競技場内に「夏に咲く桜」ですとか、「水引作品」、また「きもの」ということで、日本文化を楽しんでもらうおもてなしを実施いたしました。

5点目、広報・陸上競技場周辺の内部の装飾ということで、市内で写真巡回展を行った

りですとか、JR南武線にきかんしゃトーマスのヘッドマークや側面ラッピングを行った  
り、主要駅でポスターを掲出するなど、また等々力陸上競技場の周辺では、英国向けにウ  
ェルカムゲートですとか、階段ラッピングなどを行い、また、イングリッシュガーデンを  
模した英国歓迎の植栽「みどりのおもてなし」などを展開したところでございます。

続いて次のページ、8ページのほうに移っていただきまして、左側、4番、市民ボラン  
ティア等の活動ということで、冒頭、市長からもお話がございましたが、英国代表チーム  
川崎キャンプサポーターによる活動とおもてなしということで、118名のボランティア  
によるおもてなしやサポートが行われまして、主なサポートといたしましては、車両ゲ  
ート管理ですとか用具の運搬・設置、通訳・翻訳など、また主なおもてなしとしましては、  
お出迎え・お見送りをはじめ、サインボード設置やネームプレート作成、また折り紙プチ  
ギフトの制作などを行いまして、そうしたおもてなしなどを選手たちが自ら、SNSを通  
じてKAWASAKIを世界に発信していただいております。すみません、次のページ  
と次のページ、9ページ、10ページに、実際に選手やスタッフの方たちがSNSで発信  
していただいたものを参考で載せております。こうした形で、これまで川崎は最高のキ  
ャンプ地だったというような言葉もイギリスからいただいているところでございます。

すみません、また8ページのほうに戻っていただきまして、左側の下のところ、今後の  
ボランティア等の情報発信ということで、サポーターをはじめ、オリ・パラ室のこれまで  
の事業に貢献した企画参加者等約600人を対象に、これまでの間、継続的な情報発信の  
機会を提供してきまして、今後なんですけれども、希望するサポーター等に今後も市の情  
報を発信するほか、SNSを通じてサポーター有志もオンラインコミュニティーを設置し  
ているというところでございます。

右側に移りまして、英国事前キャンプ受入れ終了後の取組ということで、大会終了後にも  
広報を行っております。1つ目が、例えば川崎に来た選手たちの選手名鑑を作りまして、  
また、同じ等々力緑地内の市民ミュージアムの仮囲いに幅5メートルほどの装飾というこ  
とで、代表チームの結果ですとか、キャンプの様子装飾を実施しまして、またさらに、  
写真にございますが、記念プレートも陸上競技場の広場に設置をしたところでございま  
す。また、本年1月からは、記念の巡回展を市内商業施設ですとか公共施設、17施設で開催  
をしているところでございます。

2点目のアーカイブ動画の制作、配信ということで、キャンプ中、密着取材を行いまし  
て記録したアーカイブ映像がございますので、それを長編1本、短編3本、この後、短編

のほうを御覧いただければと思っておりますけれども、そういったものを作りまして、YouTube等で配信をしているところがございます。

また、記録誌の発行ということで、本市の公式記録といたしまして、キャンプ受入れの経過から終了までの約6年間にわたる取組をフルカラーの120ページのA4判、こちらをまとめまして、今月末に発行する予定となっております。

私からの説明は以上ですが、それでは、アーカイブ動画の短編の約2分ほどの動画をここで御覧いただければと思います。

(動画再生)

【井上オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】      ありがとうございました。以上でございます。

【福田市長】      ありがとうございました。それでは、資料1のところのほうに少し戻りますけれども、先ほどお話がありましたように、取組の補足をしていただければと思うんですが、資料1の12番、Colorsかわさき展について、多田委員からお願いできますでしょうか。

【多田委員】      4ページの12、Colorsかわさき展でございます。実施目的につきましては、記載のとおりでございます。

今年度の実施の概要でございますが、公募いたしまして、施設、団体、個人の皆様に呼びかけまして、100名を超えるアーティストと、例年どおり、市立の特別支援学校の子供たちに呼びかけまして、合計で147点の作品を展示いたしました。事前に新規を含みます特別支援学校や障害福祉施設へ講師を派遣しまして、絵画の制作指導にも取り組んでまいりました。今年の絵画の指導先は、新規の株式会社ゆたかカレッジ元住吉校、武蔵中原校を含む4か所でございます。そして、公募したときに、うちもぜひ絵画指導してほしいという御希望が、既に過去出張指導をした先、あるいは新規の希望者がございまして、こちらの出張指導ができなかったところには、画材などを提供してColors展のほうに参加をしていただく、こんな取組をしてまいりました。

なお、初めて協賛金を募るということは、前回ちょっと報告をさせていただきましたが、実質的には18万円ほどの協賛金がすぐ集まりまして、これにつきましては、制作指導で使用いたしました画材等に充当いたしました。大きく募集はしなかったんですが、皆さんがこういう取組、毎年毎年やるんだったら、少額でも続けていきますよというふうに言っていただきました。これはいろんな企業の皆さんもあるんですけども、市内でこういっ

た障害者ですとか雇用政策ですとか、こういうところに協力なり支援をするという目的で活動している労働組合の皆さんが随分賛同してくれまして、具体的には川崎地域連合の皆さんですとか、そういう人たちがぜひ協力したいということで、していただきました。

ほかにも、それを聞いて、じゃあ、うちもしたかったという方もいらっしゃると思いますので、次年度以降、もう少し拡大をして、特に画材の提供ですとか、出張の指導をするというような部分については社会的に支えていくみたいな、この仕組みがもう少しできればなと思います。会場確保ですとか広報誌をやるとか、実施をするという主体的な取組につきましては、あくまでも私どもでありますけれども、そして個人に配るみたいなものというのは、こんな方式も取り入れて、持続可能な取組としてますます充実していきたいなと思っております。

それから、本展を11月に開催するわけですが、ワークショップ、パラアート・ミーティングなどを募集しまして、それからColorsかわさき展というのは、インターネットで、ウェブで作品が見られるような環境をつくりまして、360度見えるような仕組みにして、こちらのほうも実施してまいりました。

それから、作品を例年に比べて多く頂きまして、あるいはグランツリー武蔵小杉さんあたりも、ぜひそういう取組だったらということもございまして、巡回展としてグランツリー武蔵小杉で30作品、あるいは市内のバス5台の車両に75作品を展示いたしまして、多くの市民の皆様にご覧いただく環境というものを提供する1本になっただけではないかなと思っております。

期間につきましては、11月、記載のとおりでございますが、巡回展、それから市バスなどございます。

それから、来場者数ですが、コロナの影響もございまして、それでも1,000人以上の方がいらっしゃっていただきました。特にグランツリー武蔵小杉では、場所柄ですとか、施設柄ですとか、3,500名を超える皆さんにご覧いただくことができました。

それから市バスのほうですが、これは延べ人員の御利用分ですけれども、3万9,000の方が触れていただいたんじゃないかなと思っております。

それから、先ほど申しましたおうちでColorsかわさき展、図録のほうをウェブ配信で見られるという試みを実施いたしましたが、こちらの資料にQRコードもございまして、こちらから入りますが、これは3月11日現在で518ビューでございます。

それから、さらにはこれをもっと広げていかなければいけないんじゃないかなと。ここ

にアクセスすれば見られるということでもありますから、会場に足を運ばなくても見られるというところでもありますから、そんなことも含めると、パラアートの情報サイトというのを今作っておりますけれども、そちらのアクセス数ももっと多くなるような工夫もしていかなければいけないという、そんな取組をしているところでございます。

現在まで、2019年の11月に開設いたしましたパラアートネットの運営状況ですが、延べ閲覧者はまだ6,200ビューぐらいです。これと併せまして2021年、昨年11月に新たにインスタグラムも開設いたしました。今後につきましては、紙情報ですとかチラシ情報ですとか、そういうことも併せて行っていきまして、広報チラシを作成して施設等にもお配りさせていただいて、そちらからの情報伝達といいますか、そんなところも併せて行えたらなと思っております。

本日こちらに、これはまだ仮のチラシでございますけれども、こんな形でパラアートネットについてのQRコードなども含めまして、情報発信といいますか、ぜひこちらのほうに来ていただけるような取組というのをも併せてしていきたいと思っております。

以上でございます。

**【福田市長】** ありがとうございます。確実に広がりを見せているというのが、支援学校の生徒さんとかもそうですし、その周りの人たちというのが結構巻き込まれている感じというのはありますよね。ありがとうございます。

**【多田委員】** 特にこの2年間で一番気を遣ったというか、注意しましたのは、コロナの中で、特別支援学校なり施設をはじめ、どういう形でこのパラアートに参加していただけるかということを考えました。前回も報告しましたが、例年のスケジュールだからお願いしますということが、果たしてその学校なり施設の皆さんに通用するのかどうかということで、お話を伺ったところ、予定どおりやってください。そのほうが励みになりますというような言葉をいただいたというのを前回報告しましたが、今回もそういう意味では、むしろ増えてきている。希望が増えてきているというようなこと。

それから、作品なんかも、前々回よりサイズを1サイズじゃなくて、小さいサイズも含めて参加しやすいようなものを作ってきたということ。そういうところも通じて、何となく広がってきているなというふうに私どもは自負しているところでございます。

**【福田市長】** ありがとうございます。

それでは、続いてですけれども、次の5ページのところ、13のブリティッシュ・カウンシルとの連携事業について、湯浅委員からお願いできますでしょうか。

【湯浅委員】 ありがとうございます。映像を用意していただいているようなので、先にまず映像を御覧いただければと思います。

(動画再生)

【湯浅委員】 ありがとうございます。今御覧いただいた映像2本ありましたが、最後に流れた曲が、日本と英国の音楽家13名が川崎市内の特別支援学校の生徒さん4つのグループ27名の生徒さんと一緒に、延べ20回のワークショップを重ねて作り上げた交響曲になります。こちらのプロジェクトについて、過去のこちらの委員会でも経過を御報告させていただきましたが、少し御説明をさせていただきたいと思います。

今まで御説明、市役所の方からもありましたように、川崎市の英国ホストタウンにおける取組やこのパラムーブメント推進に関する取組の一環で、英国との交流事業というのを私どものほうで御一緒させていただきました。その中で、2017年度より英国の芸術団体のドレイク・ミュージックとの協働事業を過去4年間させていただきました。このプロジェクトは、障害のあるなしにかかわらず、あらゆる人が音楽に親しんで、そして創造性を発揮できる、そういった環境をつくっていかうということを目的に4年間協働事業をさせていただきました。

この事業の中では、川崎市役所の皆様とブリティッシュ・カウンシル、そして英国の芸術団体ドレイク・ミュージックのほかに、川崎市内の芸術団体であるミュゼ川崎シンフォニーホールや東京交響楽団、そして川崎市で活動する音楽家の方々との協働をしてきました。プロジェクトの中で、まず初めの段階では、英国でこうした形の障害のある方、障害のない方、あらゆる方が芸術活動に参加できる環境をどのように推進しているのかという取組を御紹介させていただいたり、障害の社会モデルに関する理解を深めるためのトレーニングや、インクルーシブな音楽ワークショップの在り方というものは、通常の音楽ワークショップの手法とは全く異なるところがあります。そこを障害の社会モデルを取り入れながら、こうした活動ができる音楽家を育成していくということを丁寧に時間をかけてこの4年間させていただきました。

さらには、こうした新しい社会の関係性をつくっていくときには、あらゆる社会の団体の方、構成要員の方が連携をするというのが必要だと思うんですけれども、芸術団体であるミュゼ川崎シンフォニーホールや東京交響楽団、そして音楽家の方たちが、特別支援学校の先生方、生徒さん、そして御両親・御家族の方々との関係をつくっていけるような取組ということも時間をかけてしていきました。

その中で、1年延期になったオリンピックですけれども、当初2020年をゴールにしていたんですが、1年延びたというこの時間をまた利用してさらに交流を続けながら、昨年の夏に大きなフィナーレを迎える形で事業をデザインいたしました。昨年については、これまでのトレーニングや交流、そして新しいネットワークを基に、先ほど申し上げたように、日英の音楽家13名が、川崎市内の特別支援学校3校の生徒さん27名の方々と20回のワークショップをしました。

最初の映像で御覧いただいたのがそのワークショップの映像なんですけれども、こうした取組、英国の手法というのは、譜面を渡してこのとおり弾いてくださいということではなくて、参加する方たちの創造性や自発性を引き出していくような、即興の手法を取り入れた取組になります。それが例えばロンドン交響楽団ですとか、英国の主流のオーケストラ、また芸術団体もしている取組なんですけれども、そうしたことが自信を持ってできるというような音楽家にそういったスキルのトレーニングをしていったわけなんですけど、その中で、障害のある学生さんたちから出てきた音楽やそのアイデアを英国の音楽家が組曲として作りまして、最終的に「かわさき組曲2021」という新しい曲が生まれました。これをフェスタサマーミュージア、川崎市の大事な芸術音楽のアートプロジェクトの1つだと思いますけれども、そのフィナーレコンサートの最後のコンサートで、東京交響楽団によって世界初演をしていただきました。

当日は、参加した学生さんや先生方、御家族にも来ていただいたんですけれども、今御覧いただいたように、プロの音楽家、オーケストラが、一般の東京楽団の本公演の中の一環でその作った曲が流れるというのは非常に大きな意味があったと思います。このプロジェクトの中で、その完成に向けては、申し上げたように、芸術団体、特別支援学校、音楽家、そして日英の交流という全ての関係、そして市役所の方の大きな御協力もあったと思いますけれども、そういったことがあったからこそできたプロジェクトではないかと思えます。

このプロジェクトなんですけれども、音楽評論家の池田卓夫さんという方がいらっしゃって、非常に有名な音楽評論家の方ですが、音楽之友社が出している雑誌の中で、2021年忘れられない1曲というのを各ジャーナリストの方に聞いているんですけれども、その中で池田さんがこの「かわさき組曲」を、数多くある日本のコンサートの中で1曲、この一番ということで挙げていただきました。その中で、持続可能な共生社会に向けたオーケストラの新しい形式を提示したとても意欲的な作品であるとともに、とても心に残

る曲であったというふうにおっしゃっていただきました。

このプロジェクト、先ほどからいろんな御発言の中でも、本当に今このパラムーブメント推進の活動をする中で、やっと一歩踏み出せたというような言葉を皆様おっしゃっていたと思うんですけども、まさにこのプロジェクトでも、この4年間の取組の中でこうしたことがこの規模でできるところの第一歩ができたなと思っています。ちょうど3月の初旬にこれを振り返るフォーラムをしたんですけども、プロジェクトに御参加いただいた東京交響楽団やミュージア川崎のスタッフの方からも、こうしたこの第一歩をすごく大事に育てていきたい、そしてまた同じものが明日にもできるということではなくて、またここから時間をかけて丁寧に関係を紡いで、そして各団体の中でもこれをミッションやビジョンの中にも中心に据えながら進めていけるような環境づくりというもの、そして新たなネットワークづくりというのが必要だというようなお話が出ました。

ということで、今回、オリンピックを開催させる機運の中で非常に重要なプロジェクトに御一緒させていただいたなと思っています。御協力いただいた方には大変大きな御礼を申し上げたいと思いますが、中でも本当に参加した子供たち、御家族、そして日英の音楽家の様々な声というのはとても心に残るものでして、お手元にお配りしたこの冊子の中にその経過とプロセス、そしてどういったそれぞれの音楽に対して、また子供たちに対してインパクトがあったかということをもとめてありますので、よろしかったらぜひ御覧ください。この活動については、ここでまいた種をさらに大きく育てていけるような形で、また御一緒に川崎市の皆様ともさせていただけるといいなと思っています。

以上です。

**【福田市長】** ありがとうございます。1年延期になったことを非常にプラスに変えて、丁寧にやっていただいたことが「かわさき組曲」というすばらしい作品になったのと、このプロセス自体が非常に新しいメソッドでということですし、プロセス自体がすばらしかったと思います。すばらしいレガシーになったと思いますし、こういうことを続けていくということがすごく大事だなということを、個人的にも非常にそう思わせていただきました。ありがとうございます。

**【湯浅委員】** ありがとうございます。

**【福田市長】** それでは、ここまで取組ですとか、あるいは事前キャンプの報告がありましたけれども、何か御意見、御質問がありましたら、よろしく願いいたします。

中森顧問から御提案いただいた事業って、結構実現していい形になってきているという

のもありますけれども、いかがでしょう。

【中森顧問】　まず、今回が区切りということなので、このパラムーブメントの、どう変わったのかということと、次どこを目指すかということをつくっていくべきかなと思います。今のドレイク・ミュージックについても、イギリスから指導者を呼んで進めてきた。これは4年間で、じゃあ、次は川崎にいるリーダーがこれを継続していく。さらに、時々、イギリスと連携するとか、そういう活動につながっていけば、よりいいのかなというふうに感じました。

あともう一つは、合理的配慮とか障害の社会的モデルとか、そういう言葉が普通に出てくるんですけども、実際日本の法律で、行政とか公的などところに対する合理的配慮の規則で、商店街とか、普段のそういうところに対する合理的配慮の機関とか、そういうものが多分これから出てくると思うんですけど、その中で、川崎はここまでできているよとかということもしっかりと数字で見えていったほうが。実際、件数はたくさん出ているからよかったと思いますけれども、そういうのが見えるように、要は日本を引っ張っているよとか、そういうことをぜひ川崎のこのムーブメントをうまく広げてもらいたいなという気がします。

もう一点は、昨年、東京大会、日本は13個の金メダルを取ったんですけども、前回リオのパラリンピックではゼロでした。自国開催で、やっぱり金メダルを取らないと盛り上がりがないということで、日本パラリンピック委員会は特別強化委員会をつくって、金メダルの候補選手を調べ上げて、団体を含めて38は出てきたんですけど、その38の団体・個人にヒアリングを2回、3回やっているんですね。直接話をして、金メダル取りたいんですか。取りたいですと。じゃ、取るために何が必要ですか、困っていることはありませんかということを知ると、すごくたくさんあるんですね。コーチの問題とか練習場所の問題とか、あと海外に行きたいとかいろんなことがあって、特別予算を組んでそれをやっていった結果、38のうち12個金を取れたんです。それ以外で、金も含めてメダルは38個。やっぱり皆さん本当に困っているなど。

ぜひ僕は、川崎で有望選手、これはオリンピックも含めてパラリンピックもですけども、よく聞いて、本人が望むこととか、お金で解決する支援も大事かと思いましたが、実際は現状あるものをうまく活用するということがもっと大事かなと思います。そういう意味で、直接障害のある人と対話して聞いて、紙で要望書を書いて可否を判定する。決まったよ。幾らですとか、こんなじゃなくて、そこにはやっぱり対面でいろいろ

話を聞くような手法をぜひやってほしいなど。

実際やってみて本当に皆さん、いろんなことで困っているし、こういうことも知らないのかとか、これが活用できるんじゃないのかとか、そういったこともあったので。いずれにせよ、はじめなので、しっかりとこのムーブメントの成果と、どういううまくいったことがあって、これを次にどうつなげるということもちゃんと書き出しておく、川崎市そのものが分かりやすく、職員も目指せるのかなと思います。ちょっと長くなりましたけど。

【福田市長】 ありがとうございます。ほか、ございますでしょうか。

よろしく申し上げます。

【中澤委員】 お久しぶりです。

【福田市長】 お久しぶりでございます。

【中澤委員】 いろんな取組をやってきたんだというのを、今日聞いていて、すごいなと思いましたけど。この勢いを生かして、もっともっと大きく羽ばたいてほしいなということがあって、今お話にもちょっとあったんですけど、障害者差別解消法なんですけど、民間事業者についてだけ努力義務になっているんですよ。でも、これが去年の国会で義務に変わったんですよ。一応、3年以内ということになっていますけれども、もうみんな動き出していて、私なんかはコンサルをやっている企業さん、結構大手ばかりなんですけど、もう意識していて。というのは、オリ・パラがあったこともあって、周りの人だけじゃなくて障害者自身も権利の問題をしっかりと考えるようになって、今までだったら、こんなこと言っても、頼んでもやってくれないだろうとか、誰も受け入れてくれないよと諦めていたことが多かったんですけど、今、2016年に一応法律ができてから、窓口が各自治体とかにできているはずなんですけど、まだまだ整備もされていなくて、全然問合せとかも十分なかったんですけど、今はもう各自治体も窓口がしっかりしてきているところが多くなって、事業者にこういうところで、例えば手話通訳が必要だよ、ちゃんと用意してほしいという話をしても、今までは対応してもらえなかったから泣き寝入りだったんですけど、今度は逆に川崎市とか、私の場合東京だから、品川とかそれぞれの区とかで訴える窓口があるので、必ず言ってくる。そこから一緒に事業者に対して対応を求めるといって言うことができるというのがあって、すごく大きな力になるということみんな分かったみたいで、特に聴覚障害の人なんかは横のつながりがすごく多いので、一気にみんな問合せが増えていて、これから真剣に対応を考えていかなきゃいけないなと、そういうふう意識する企業が今多くなっている感じですね。やっぱり川崎市でも、川崎市、結構大き

い企業がいっぱいあるので、ここら辺がもっと一緒に川崎市とタッグを組んで、具体的に何をやるかということに取り組んでいただけたら、これが全国に広がっていくのかな。そんな感じがするんですけども。

【福山市長】 そうですね。

【中澤委員】 ぜひお願いしたいなど。

【福山市長】 ありがとうございます。先ほどの合理的配慮の考え方みたいのをまとめたというのは、本市だけということではなくて、企業の皆さんにも参考になるようなものというのも一つの考え方としてあって、やっぱり共有していくということはすごく大事だと思っています。

草壁会頭、経済界を代表して少し、最近どう変わってきたのかという意識の面とかも含めて、ちょっとコメントいただければと思うのと……。

【中澤委員】 市長、すみません、ちょっと一言。企業は、最終的にそういう対応をすることでビジネスにつながるということが分からないとみんな動いてくれないんですよ。やっぱりそこを見せるかどうかということだと思いますね。

【福山市長】 そうですね。

【中澤委員】 自治体が挙げるものとは少し違うけれども、ゴールがちょっと違うところにあると。それをやるのがみんな動き出すきっかけになるかなと思っているんです。

【福山市長】 ありがとうございます。

【中澤委員】 すみません。

【福山市長】 草壁会頭からポイントと、あと山崎さんからも少しコメントいただいているんですか。世の中どう変わってきたと見ておられるのかというのをいただければと思うんですが。

【草壁委員】 どう変わったかはちょっと、何ともいろいろな評価がありますので。ただ、バリアフリーマップって行政も、川崎市に限らずいろんなところで作り始めていますよね。ああいうものが始まって、川崎市のほうでは各店舗にバリアフリーの要件を書き入れて、それが後で閲覧できるようなそういう形のものを作っている。それが川崎市の中ではある程度標準になりつつあるというのは、意識のステージが少し上がってきているなというものは強く感じます。マップだけでもしょうがないだろうという、ある意味そういうのが自分の心の中であって、自分が今ここにいる、どこどこに行くときにどういう道をとるというナビゲーション的なものというそういうのって、というふうに前は思っていたんです

けど、それはナビタイムだとか、グーグルだとか、あとはゼンリンかな、そういうようなやつがもう取り組み始めていて、一部の地区では、ここからここに行くためにはこういうルートを通るとそこに到達できますよというバリアフリーのルート案内みたいのが実際にできるように今なりつつある。それは社会全体がそういうものに対する、それが普通だというふうに感じるようになってきつつあるんだろうなと思います。

自分は、イベントとかそういうのをたくさん増やすというよりは、これはもうレガシーとなった今、こういうものというのは継続していくことに大きな意味があるとは思いますが、意識の水準というか、我々の持っている常識というのをもう少しそちらのバリアフリーのほうの常識に近づけて、今近づきつつあると思いますけど、そういう方向性でもっとうまい何か象徴的なことがあればもっと進んでいくのかなという、そんなような。ただ、2年前、3年前と比べれば、考えられないくらい非常にそういうのでは理解が進んだんじゃないかなというのが今の自分の感想です。

**【福田市長】**      ありがとうございます。

山崎委員、よろしいですか。

**【山崎委員】**      s t u d i o - Lという事務所をやっています、ワークショップばかりやっているんですね。オリジナルのワークショップをつくらうと思うと、川崎でやるならこういうカードゲームがいいかなとか、名護市で総合計画をつくる時だったらこういうすごろくみたいにするのがいいかなとか、毎回人々が楽しく自分たちのまちの未来について話し合おうというときに使うツールを作るんです。1年間で40地域ぐらいしかできないんです、うちの場合は20人ぐらいしかスタッフがいませんから。40地域ぐらいお手伝いをするということをやっていると、20年ぐらいこういうことやっていると、毎回ワークショップのたびにツールを作るので、すごくたくさんツールを作るんです。つまり、すごくたくさんカードを切るんですよ、カッターで。すごくたくさんスタンプで押すんですよ。こういうのをうちのスタッフたちが当時はやっていたんですけど、20年前は。

今はよく外注というのをしちゃうんですけど、このスタンプをめちゃくちゃ丁寧に押すのが好きという人もいます。それがたまたま知的障害者と今は呼ばれる人たちだったりするんですけど、こういうことを繰り返して年間にかなりそういうツールを毎回オリジナルで作るので、NPO法人をつくって、就労支援のBとかで、うちの事務所の横にそういう作るのが好きという人たちがいっぱい来てくれるような場所をつくって、うちがそこ

に外注をして、そういうふうと一緒にやれたらいいねということをちょうど今会社としてそういうことを検討している途中です。

検討している途中に、うちのウェブサイトにも、障害者雇用の定数足りていますかというメールがよく届くんです。2週間に1回ぐらい。そういう業者があるんでしょうね。50人に1人、100人に2人、今定数ありますよと。足りてなかったら弊社が紹介しますよというメールが来るんです。この温度差がすごく気持ちが悪いというか、言い方はちょっときついですけど、障害者という人を誰でもいいからあなたの会社に紹介しますよとってくる会社とそれが好きだという人と一緒にやりたいと思う気持ちを、企業はこれからどうバランスさせていくのかなというのを、自分の会社の中で2つ見ながら感じる事が多いです。

どうしてもそういう基準だったりとか定数だったりを決めると、それを埋めるために、もうかるからそこに参入しようと思う企業というのも出てくるかもしれない。けれども、先ほどおっしゃったみたいに、企業は障害者の方々と一緒に何かをやるということがどうもうかるかといったときには、多分、今言ったようなもうけ方ではなくて、むしろその人たちが生き生きと一緒に楽しく仕事をしていくし、クオリティーも高くなっていくところをそれぞれの企業がオリジナルで発明していかなきゃいけないはずなんですけど、どうも外注して済ませようという方向に行きがちなのが、基準のようなものをつくること。いいところまで行ったんだけど、ここから先はそれぞれの企業がいろいろと狙っていかなきゃいけないというか、自分たちにアイデアを持たなきゃいけない時代になりそうだなと思っていて、そういう基準を設けることとのバランス感覚をどうしていくのか、これはすごく重要な点かなと思いました。

あと一点、たまたま知り合いの、今フリーでアナウンサーをやっているんですけど、平井理央さんという人が渋谷でラジオの番組をやっていて、そのラジオの番組の中で盛り上がったらしくて、パラスポーツすごろくというのを作ったと言って、届けてくれたんです。今日それを持ってきましたけど、1回やってみたら、めちゃ面白くて、これが。でも、これ渋谷の区長に言うと怒られるんだけど、残念ながら渋谷って書いてあるんですよ、ここにマークがね。残念でもないですけど。まあ、いい男ですけど。でも、「渋谷の体育会」と書いてあって、多分、忠犬ハチ公だと思ってしまうんですけど、アイコンがこうあるんですけど、ここはもうちょっと3本川の色が違うマークが入っていたらいいんじゃないかなと思いつつながら。でも、よくできていました、このゲーム。

いわゆる障害のある人生を歩まれている方が、あるときパラスポーツを見て、すごろくやっているとですよ。やりたい、これが私の生きがいでって気づいちゃうという。そこからやり始めるんだけど、何かうまくいかないんですよ。サポートしてくれる人が見つからないし、移動できないしというので。アスリート力というのがだんだんだんだん上がっていくんですけど、早くゴールに着いたら勝ちじゃないんですよ。アスリート力をどれくらい高めたかが最後のみんなの合計点になるというやり方で、パラリンピックが開催されると、全参加者が全員そこに集められて勝負するとかいうことになっていたり、スピードを競わないんだけど、着実に何かを高めていながら、すごろくだとこまの文字を読んじゃうよねというところからパラの理解に進めようと思ってこれを作りましたとおっしゃっていましたが、その企画をした平井さんという人が言っていたんですけど。

これ、クラウドファンディングで、渋谷区の小学校全部に寄附したらいいんです。別にこの人たちじゃなくてもいいかもしれないし、この人たちでもいいんですけど、必要であれば紹介しますけれども、川崎市も、パラアスリートの方々にすごくいっぱいインタビューして、後ろにインタビューが入ってる冊子が入っているんですけど、インタビューして、実際にあったことが全部すごろくのこまになっていて、小学生たちがそれをずっと学びながら楽しむことができるというツールらしいので、こういうのも1つのアイデアだなと思いましたね。こんなことで距離が縮まったり、アイデアがいっぱい出てくるということの結果、大人になったときに、定数ではないようなコラボレーションの仕方みたいなのを思いつく大人が増えるのではないかなと、そんな感じがしました。

**【福田市長】** ありがとうございます。価値のはかり方というのが非常に多様になってきたということだと思いますし、今ラジオの話をされましたけど、この前、NHKの朝のラジオを聴いていたら、山崎さんが川崎のおもてなし大作戦のことを宣伝してくれていて、非常にありがたいなと思いました。ありがとうございます。

ほかに何かコメントありましたら。よろしいでしょうか。リモート参加のお三方も大丈夫でしょうか。

**【杉山委員】** 杉山ですけど、よろしいでしょうか。

**【福田市長】** どうぞ。

**【杉山委員】** ありがとうございます。まず、成田委員長、感動を本当にありがとうございました。勇気と感動をいただきまして、本当に感謝申し上げます。

私のほうから1つ。資料1の15番でしょうかね、意識調査の件、先ほどの発表をお伺

いしていて思った点なんですけれども、大変コロナ禍でオリ・パラも延期になりながら、いろんな制限とか緊張感の中で市長も職員の方も様々取り組まれてきたと思うんですけれども、この意識調査がパラムーブメントに取り組んできた1つの結果というか、になるのかなというふうに捉えて聞いていました。

その中で、2番目ですかね、「パラリンピックを観て、障害者に対する理解や意識の変容はありましたか」というのは51%ということだったんですけど、私はこれを聞いていて、もっとあるんじゃないかと思いながら聞いていました。私自身もそうですし、私の周りもそうですけれども、やっぱりパラリンピックですごく共生の考え方とか、何が自分たちができるかというふうに考え始めたという声は本当に多かったので、この辺りの数値がこれぐらいと読んでいらっしゃるのか、あるいはもうちょっと高かったんじゃないかと読んでいらっしゃるのか、その辺の指標も含めて、結果がどうだったのかという考察が必要なのかなと思ったのが1点です。

もう一つは、パラムーブメントのこれだけの皆様方の取組の認知が市民の方にどこまで広がっていくかというのが大きな目標の1つだったと思うんですけれども、今回、市民1,000名の方のインターネットモニターと、2番目の障害者向け、中学校向けなんですけれども、何かもうちょっと幅広く、大変だと思うんですけれども、市民の方の声を聞いてもいいのかなと思いました。これだけ様々な取組をされていらっしゃるの、いろんな場で触れ合っている方も多と思いますし、触れ合った方は必ず意識が変わっていると思いますので、次に向けての取組を考えるに当たっても、この意識調査15番というのは大変重要なかなと思いましたので少し意見をさせていただきました。ほかにも調査されていらっしゃることもあるかもしれませんので、一部の回答だけの回答に私もなってしまうんですけれども、ここを重視するべきかなと思って少し意見させていただきました。

**【福田市長】** ありがとうございます。今後もこういうような調査というのはしっかりやっていきたいと思っています。なかなか2年間、コロナのところで取り組めなかった、あれもやりたかった、これもやりたかったというふうなことができなかったの、市民とのエンゲージメントという意味では非常につらい部分がありましたけれども、本当に繰り返し言っていますが、ここが終わりではないので、まさにここからさらにもっと多くの市民を巻き込んでいこうと思っています。その経年みたいなものをしっかり取って分析して、次につなげるというサイクルを繰り返していきたいと思っています。ありがとうございます

ございます。

【杉山委員】 ぜひ期待しております。

【福田市長】 それでは、すみません、ちょっと時間が押しましたので、次第の3で、資料3について事務局から説明をお願いします。

【成沢オリンピック・パラリンピック推進室担当課長】 それでは、かわさきパラムーブメントにおける来年度の主な取組について御説明いたしますので、ページ番号11の資料3を御覧ください。

初めに、かわさきパラムーブメントの全市的推進でございますけれども、かわさきパラムーブメントの推進体制としまして、庁内各局が主体となって推進するためにレガシー検討プロジェクト会議による検討や、その場での有識者との意見交換などを今後実施してまいります。推進体制については、後ほどもう少し詳細に御説明いたします。

次に、レガシー形成に向けた取組としましては、多くのものが今年度からの継続となっておりますが、新たな取組としましては、各スポーツセンターにおけるパラスポーツコンシェルジュの設置を予定しているところでございます。こちらは理学療法士などの専門家をパラスポーツコンシェルジュとして特定の日時に配置して、スポーツに関心のある利用者からの相談に応じたり、パラスポーツの提案などを行うような取組を想定しております。

右に参りまして、プロモーションにつきましては、新規事業としまして、パラリンピアン交流教室などを予定しております。

次に、共生社会ホストタウン関連事業でございますが、英国オリンピック及びパラリンピック代表チームの事前キャンプ受入れを契機とした英国との交流事業ですとか、ブリテイッシュ・カウンシルさんとの連携事業については、引き続き取り組んでまいります。

1枚進んでいただきまして、今少し触れました今後のかわさきパラムーブメントの庁内推進体制について御説明いたします。

1つ目の庁内推進体制でございますけれども、現在、全庁的な推進体制として、局長級の職員によるかわさきパラムーブメント推進本部会議というものを設置しておりますが、各所属が主体的にレガシー形成に向けた取組を推進するため、本年1月に、その配下に「レガシー検討プロジェクト会議」と比較的關係性の近いレガシーでグルーピングをした部会を設置して、これまでの取組の検証とともに新たな取組を総括するための検討を始めておりまして、また、今後検討に際しまして、各レガシーに関する有識者の方に御助言をいただくための各部会の参画ですとか、多様な主体と取り組むためにステークホルダーとして

いろいろな団体とか関係者を交えて、今後この部会の中で検討していくことを予定しております。

次に、組織体制ですけれども、今、杉山委員が御指摘になったパラムーブメントに係る意識調査で55.6%の方が東京パラリンピックをテレビで観戦して、そのうち51%の方が障害に対する理解や意識の変容があったと回答しておりまして、こうした東京大会による共生社会に向けた機運の高まりですとか、これまでの取組も踏まえ、かわさきパラムーブメント推進ビジョンに基づく「多様性と社会包摂に関するレガシー」の形成に向けた取組をより一層進めていく必要があると考えております。

東京大会が終了しましたので、私どものオリンピック・パラリンピック推進室は今年度いっぱい廃止となりますけれども、市民文化局に担当部長1名、担当課長1名、担当係長2名、職員1名から成るパラムーブメント推進担当を新たに設置しまして、かわさきパラムーブメントをより一層推進してまいります。

資料3の説明は以上でございます。

**【福田市長】** ありがとうございます。今後の取組についてお話しさせていただきましたけれども、これについて御意見などいただけましたら、よろしく願いいたします。

ちょっと目新しいところで言うと、パラスポーツコンシェルジュというのを設けて、スポーツをやりたい、あるいはどういうのが向いているんだろうかというのを少しガイドするというか、コンシェルジュするというのを新規に立てて御案内していきたいと思っております。

どうぞ。

**【中森顧問】** パラスポーツコンシェルジュ、非常にいいことだなと思います。我々、日本パラスポーツ協会の指導者制度の中に初級・中級・上級という指導者の制度があって、その中の中級の指導者については、PT、理学療法士対象の講習というか研修もやっていて、ぜひパラスポーツ協会の推進部のほうに連絡を取って、川崎市にどれぐらいの指導者がいるのかとか、今、理学療法士の資格を持った人がいるのかとか、そういったことは教えてくれると思うので、独自で配置されようと思われていると思うんですけれども、そういう連携も取っていただくと非常にありがたいのかなと思いました。

それと、川崎市の障害者スポーツ協会とも、やっぱりそこはうまく連携を取って、いろいろ情報の共有化をしながら、スポーツをしたい障害者がよりよくできるような、そういう仕組みになったらいいかなと思いました。

あと、もう一点、最後に僕もずっと思っていることなんですけれども、川崎市を含めて、いろんな自治体でいろんな行事が行われています。その中に移動の問題とか、イベントとかそれはあっても、そこに泊まって快適に参加できるかという、ホテルは非常によくないと思うんですね。障害のある人たちが泊まりやすいホテルが法律で1%、2%とかそんなことを言っている。それが本当にこれからの共生社会で合っているのかどうか。

川崎はぜひいろんなイベントをされているので、泊まりがけで来られた人が快適に泊まれるようなホテル、独自で川崎で条例をつくって、新たなホテルはバリアフリーとか、あと僕は、これから3世代が楽しめるホテルをぜひ造っていただきたい。じいちゃん、ばあちゃんと親と子供、3世代が例えば泊まってイベントに参加するとか、そういうホテルをぜひ先駆的に造ってほしいなという。ホテル業者のほうは商売ですから、狭いところできかにたくさんの人をとというふうを考えるけれども、これから長い目で見たら、快適なホテルがやっぱり大事かなと。

以上です。

【福田市長】      ありがとうございます。

中澤さん、お願いします。

【中澤委員】      ちょうど今お話が出たので。私もコンサルで、今おっしゃったような形のホテルの開発を今進めている設計事務所とかホテル経営者のほうとやっているんですけど、たまたまこれ東京都の話なんですけど、私ずっと委員をやっていた関係で、観光の宿泊施設のバリアフリーの助成金制度をつくってお手伝いしたんですけど、やっぱり今あそこもオリ・パラに向けて助成金を増やして大分やれたらいいのになと思っていたんですが、インバウンドでいっぱいだからそんなことやっている暇がないと言われてなかなか進んでいなかったんですけど、今逆にインバウンドはないので、例えば従業員に対するそういう教育ですよ、こういうものをやったらどう？ という話で、助成金もそういうふうに使えるようになっているので、何かそんなのをこの機会につくってきっかけをつくっていくと、このパラムーブメントとうまくリンクしてくるかなと。ハードをいきなりやるんじゃなくて、その前に何が、どういうことが必要とされているのか、何に困っているんだよということを理解してもらえるような、そっちからやってみたらどうかなと思います。それを川崎がやったら結構変わるんじゃないかな。それを受けないと、多分、ホテルの経営者もどうしたらいいか分からないし、バリアフリーって金がかかるんだよ、それしか思っていない人が多いので、そこをぜひやってほしいなと。

【福田市長】 本当、おっしゃるとおりですね。確かにそういうふうに思います。ハード、お願いしますと言っても、なかなか意識が変わらないとそういうふうな形、実際の行動には移さないと思いますので。

【中澤委員】 もう一個だけ言うと、ホテルの部屋については、少なくとも最近のホテルは、50部屋以上の客室のあるホテルは、1つ以上バリアフリールームがなきゃいけないんですよ。ただ、日本のホテルって、その部屋のことを載せないようにしている、ホームページでも。発信しないんですよ。障害者の人が来られると分からないから、あまり前に出さないんですよ、部屋のことについて。新しいホテルも割とそういうところがあって。これをちゃんと発信できれば、今まで気がつかなかった人たちもみんな来られるから、それからやったら？ ということで、今、新しいことをやっているの、もうすぐ多分事例が出てくるんですけど、それをやってみたらどうかと。ホームページを変えるだけだからお金そんなにかからないので。それだけでもできること。今はチャンスなんです。またいっぱいお客さんが戻ってきたら、やってる暇ないということになってしまうので、ここを狙ってみると。今チャンスなんですよ。

【福田市長】 ありがとうございます。

ほかにございますか。多田さん。

【多田委員】 非常に事務的なことなんですけれども、推進体制ですが、ここを読むとこういうふうに記載はしてあるんですが、今後、この新たなパラムーブメント推進担当というのは、中段にあるかわさきパラムーブメント推進本部会議全般の業務を所掌するみたいな感じのイメージでよろしいんですか。というのは、新たなプロジェクト会議というのは、それぞれの部長さんがメンバーになっていても、ここでの横断した情報交換とか進捗状況というのが特に外からだと同いにくいんですが、それを所掌している分割のパラムーブメント推進担当にお伺いすれば大体情報もいただけると、そういう理解でよろしいんですか。

【福田市長】 はい。

【多田委員】 じゃあ、結構です。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】 ちょっとそこ、補足をさせていただきますけれども、オリ・パラ室に代わって今度、パラムーブメント推進担当が全体的なことを常に把握していて、例えばそれぞれの、ここで言う部会ですね、例えば文化で言いますと、スポーツ・文化部会という部長級・課長級の会議なんですけど、ここで具体的にものを

詰めていくんですが、実はこれ、今後、庁内の職員だけではなくて、先ほど上でも触れましたけれども、レガシーごとに関する有識者の助言ですとか、実際にステークホルダーという言い方をしていますけれども、例えば文化財団ですとか、さっき出てきたドレイク・ミュージックで言うと、ミューザシンフォニーホールさんですとか、そういう他も交えて一緒にどうしていこうかという議論を始めていくので、常にそういう情報は皆さん共有できますし、パラムーブメント推進担当は全体を常に把握している形で推進していきます。

【多田委員】 結構です。

【福田市長】 ありがとうございます。実際に1月からもう部会が始まっていて、相当活発な議論が始まっていると聞いています。今後、今申し上げたようにステークホルダーの方たちにもアドホックで入っていただいたりみたいな形で動かしていくと。全体としては推進担当が把握をしているという形になります。

【原オリンピック・パラリンピック推進室長】 もう一点だけ補足を。先ほどの中澤委員のホテルの話なんですけど、実はこのオリ・パラ室ができた当初2年間、市内のホテルに全部バリアフリー調査をさせていただいて、確かにハードでできないところをソフトでどうカバーするか。各ホテルにコンサルタント的なこともさせていただいて、従業員の研修もさせていただいたということがあるんですけど、当時のお話としては、まだコロナがあったわけではないんですけども、非常にビジネスホテル系が多い川崎市ですけど、稼働率が90%ぐらいで、本当にバリアフリー工事もしたいというホテルもあったんですが、その間、ホテルを閉めなきゃいけない。それはできないみたいな話で、また今日の意見も含めて、その辺の視点でもう一度、何ができるかは検討させていただければと思います。

【福田市長】 ほかにございますでしょうか。

【大塚委員】 リモートから大塚ですけれども。

【福田市長】 大塚さん、どうぞ。

【大塚委員】 今のお話なんですけど、今、川崎市庁舎、新しく建てていると思うんですが、その後ろに「縁道」さんというホテルがオープンされてやっていると思うんですが、1週間半前ぐらいに私、宿泊をさせていただいたんです。このホテルには1部屋、アクセシブルルームというか、ユニバーサルルームがありました。ですが、しつらえは一応、車椅子で移動できるようにはなっているんですけども、手すりの位置ですとか、スペースの取り方とか、そういったいろいろなところでちょっと首をかしげてしまうようなところ

が何点かあったんです。せっかくこういったホテルを整備していただくときに、今中森さんからもありましたように、改正バリアフリー法によって、50室以上のところは1%以上設けることになったと。ただ、利用実態にそぐわないが整備が進んでしまっているのが非常に残念なところだなというふうに感じておりますので、中森さんからもありましたように、何かこういった条例で、例えば設計、建築するときなどに、川崎市に在住の、例えば障害当事者団体ですとか、そういったところで事前に協議に入っていき、設計・企画段階から当事者を巻き込んでいくというふうなことをぜひ取り組んでいただきたいと思います。そうすればこそ、当事者の利用実態に合ったような、本当に必要としているバリアフリーの設備が整った客室ができて、宿泊される方も多くなるのではないかなと。

プラス、バリアフリーも対策をやり過ぎると、いかにもな作りになってしまったりとか、ちょっとデザイン性に乏しいものになってしまって、本当に当事者しか泊まらなくなってしまいうんですけれども、これを予約のレギュレーションとかで、例えばそういった当事者の方から3日前までに予約が入らなければ一般開放する。一般の方が泊まるときにも何もバリアを感じないような、言われてみて初めて、この部屋って対応のお部屋だったんだと気づくぐらいのデザイン性のあるものを造られると非常に、稼働率の問題からいっても事業者にとっては納得のいくものになると思うので、ぜひそういった部分を進めていただければ大変ありがたいなと感じております。

以上です。

**【福田市長】** ありがとうございます。中澤さんのお話も、今の太田さんのお話も、中森さんのお話も、非常に具体で参考になるお話をいただきました。ぜひ川崎でも、どういう手法というのが、事業者にとっても利用者にとっても最もいい手法なのかというものをぜひこれからしっかり検討していきたいと思っております。そういった意味で、いろんなこれから部会をやっていきます。具体的な取組をするときに、ぜひこのフォーラム、一旦終了となりますけれども、いろんな形でアドバイスしていただきたいと思っておりますので、太田さんも引き続きよろしく願いいたします。

**【太田委員】** よろしく願いいたします。

**【福田市長】** それでは、よろしいでしょうか。そろそろ時間になりましたので、最後は、共同委員長をこの6年半にわたってお務めいただきまして、競技生活と並行しながらという意味では、相当御負担をおかけしたかと思っておりますけれども、成田共同委員長から御挨拶をお願いできますか。

【成田共同委員長】 私は2013年に東京でオリ・パラが決まった瞬間に、ブエノスアイレスのホテルで迎えることができ、帰りの飛行機の中では、滝川クリステルさんと一緒に飲みながら、これから東京を変えなきゃね、変えられるチャンスだよなんて言いながら帰ってきたのをすごく思い出します。本当に自分がまたそこから選手に戻るなんて考えてもいなかったんですけれども、私のこの生まれ育った大好きな川崎を動かすことができたかなと思っています。このフォーラムを通して、パラムーブメントを通して楽しくできたかなという。コンビニに「パ」のステッカーなんて貼ってもらったらすごくうれしかったです。

ただ、これで満足という形ではなくて、最近、病院に、車椅子用のトイレを作ったんだと言われて行ってみたら、ゴミ箱が置いてあるんですけど、足を踏んで蓋を開けるゴミ箱だったんですね。どうやって開けるんだろうと思って。私、足動かないから、ここを手で触るなんてとても汚くてできないし、すぐに院長先生に言って、そうしたら、その次行ったときには、ちゃんと普通のごみ箱が置かれてあって、ああ、よかったなと思ったんですけれども、本当に最近の話で。

あと、私は小田急線沿いなので、時々ロマンスカーに乗りたがる人で、これだけスマホで新幹線でもロマンスカーでも予約ができるんですけど、車椅子用のところは窓口に行かないとできないんですよ。だから、それもすごくおかしな話で、駅に行くまでも大変な、ましてや雨が降っていたら行けないじゃないですか、傘が差せないのに。どうしてこれだけスマホが進んでいるのに、障害者の席は窓口に行かなきゃいけないのかなとか、そういうところでまだまだスムーズではないなと思っているところです。

ただ、4月から私、今度、まちづくりのほうの委員をさせていただけるので、またそこでもそういう交通の話とかしていただけるのかなと。そうしたら、もっともっと変わるのかなということで期待したいなと思っています。本当に長い間、ありがとうございました。(拍手)

【福田市長】 それでは、最後に少し私からなんですけれども、本当にこのフォーラムに御参加いただいた全ての皆さんに感謝申し上げたいと思います。皆様がいたからそれぞれの様々なプロジェクトというのができましたし、少なからず6年前に比べて川崎も変わったと思います。ただ、冒頭申し上げたように、まだ緒に就いたばかりということで、いまだに気づかされること、あつというふうに思うことも多々あって、まだまだやらなければならぬことというのが膨大にあるなと思っています。

当初、オリ・パラが決まって川崎でどうするかといったときに、ロンドン大会でイギリスが変わったように私たちのまちも変わろうと言ったんですけれども、それが実現できたかという、まだ残念ながらその域には達していないなと思っています。ただ、これからも挑戦はもっと頑張るということをここで決意したいと思いますし、先ほど申し上げたように、これから推進体制をまた新たに整えて、いろんな人たちを巻き込みながらやっていきます。ぜひ、この6年半で御一緒したプロジェクト、継続の部分もありますし、今日も新たな課題をいただいた部分がありますから、ぜひこれからも関わっていただき、つながっていただきたいというふうをお願いをさせていただきたいと思います。

本当に6年半の間、御尽力をいただき、様々なプロジェクトに関わっていただいたことに改めて感謝を申し上げて、締めさせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

それでは、事務局からよろしいですか。

**【原オリンピック・パラリンピック推進室長】** では、最後に事務局からまた事務連絡になりますけれども、冒頭にもお話ししました議事内容、ホームページで掲載をさせていただきますので、追って事務局から出席委員の方々に発言内容の確認等の御連絡をさせていただきますので、また御協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、本日は本当にお忙しい中、ありがとうございました。

— 了 —